

件名	令和3年度 第2回 福井市障がい者自立支援協議会 こども部会 報告書		
日時	令和3年9月2日（木）10:00～11:30	会場	オンライン開催
協議事項	（1）継続した地域課題について （2）新たな地域課題について		
協議結果	<p>■報告内容</p> <p>（1）全体会及び各部会の報告について</p> <p>意見</p> <p>○相談支援事業の評価で地区毎に件数のばらつきがある。カウント方法が統一されるよう、すべての委託相談支援事業所に周知してほしい。</p> <p>○相談が1回で終了する場合と複数回かかわる場合とがある。複数回かかわる必要のあるケースの傾向を検討していったらどうか。</p> <p>（2）相談ミーティングの報告について</p> <p>意見</p> <p>○相談ミーティングの位置づけがわからない。</p> <p>○運営会議のメンバーが資料からはわからないため、メンバーも含めて、運営会議と相談ミーティングの位置づけがわかるように記載してほしい。</p> <p>部会での発言の訂正</p> <p>・運営会議の今年度委託相談担当は『地区相談ほくとう』</p> <p>■協議事項</p> <p>（1）継続した地域課題について</p> <p>①聴覚障がい児への支援</p> <p>方向性</p> <p>令和3年12月24日（金）に障がい児通所支援事業所を対象に研修を行う。</p> <p>②教育と福祉の相互理解</p> <p>方向性</p> <p>福井市特別支援教育専門委員会における地区別協議会で、福祉事業所等が参加できる仕組みを構築し、合同研修会を行えるよう検討していく。</p> <p>意見</p> <p>○福祉分野という表記について、障がい福祉分野だけではなく、子育て支援などの分野も含まれているのか。</p> <p>○地区別協議会には園（主任保育士等）も参加している。</p> <p>③支援学校卒業後も安心して生活できる環境を作るための支援体制を在学生のうちに（高等部以前から）整えておくことが必要。</p> <p>方向性</p> <p>令和3年11月13日（土）に放課後等デイサービス事業所、特別支援学校（身体障がい）を対象に「特別支援学校と放課後等デイサービスの連携」をテーマとしたオンライン研修を行う。</p>		

意見

○身体障がいには医的ケア児も含まれる。就労、生活面等、議論の課題をどこに絞っているのか？

→生活面、その中でも寄宿舍の利用に絞っている。他に課題と感じ、かつ協議が必要という場合は課題提起シートを提出してほしい。

(2) 新たな地域課題について

年長児の就学に向けた放デイ利用申込で、必要な人が利用できる環境が必要

意見

○希望しても放デイを利用できない待機児がいるということか？

→例えば、週3日の利用を希望しても週1日しか利用できない子どもがいる。放課後児童クラブ（学童保育）の利用で問題ない子どもが放デイを利用している場合もある。

○放課後児童クラブ（学童保育）は保護者のニーズであり、学校では就学時健診時（11月）に一斉に周知しているため、平等であると言えるが、放デイは「療育の場（子どものニーズ）」と「障がい児の学童保育の場（保護者のニーズ）」という面があり、その認識の違いなども含めて平等ということが難しいと感じる。

○一つの地域課題の中に「放デイの療育が必要な子どもはどれくらいいるのか」「そのアセスメントがしっかりできているか」「放デイには求められる療育を提供できるだけの質があるのか」など様々な課題がある。

○各機関において、放デイ利用が必要（ではないか）と判断する上で、アセスメントは行われているか？障害福祉サービスの利用に関してどのように紹介しているか？紹介する際にはアセスメントの情報は相談支援専門員へ提供しているか？また、各機関にワーカーがいる場合、放デイへのつなぎ等の役割を担っているか？

〔市子育て支援課〕

- ・必要だと思われる子どもに関しては放デイを勧めることはあるが、アセスメントまでは行っていない。

〔県こども療育センター〕

- ・アセスメントを取って、必要な子どもに保育所等訪問支援なども含めて障害福祉サービスを勧めている。
- ・児童館は行きづらいなど、生活全般のことは相談員に相談するように伝えている。
- ・放デイ利用を希望している保護者に対しては、子どものニーズなのか保護者のニーズなのかを確認することも多い。
- ・保護者のニーズへの対応、家庭環境の把握などについては医療分野で対応するものではない。
- ・医療分野におけるアセスメントは、放デイを利用する必要があるか判断するものであるため、意見書が医療からのアセスメントと捉えられる。

- ・どこの放デイを利用するか、どのような療育が必要かなどのアセスメントは医療とは違ったアセスメントとなる。
- ・こども療育センターの医療ソーシャルワーカーはすべてのケースには入ることはできない。その点について、今後検討が必要と考えている。

〔市学校教育課〕

- ・教育支援委員会でアセスメントを取り、家庭における状況や子どもの特性などを考慮して療育を受けると必要性がある場合、放デイの情報と合わせて窓口として市障がい福祉課を紹介している。
- ・既に相談支援専門員がいる場合はそちらに相談するよう伝えている。
- ・特別支援教育コーディネーターの会議でも障害福祉サービスの周知を行っている。
- ・在学児については、家庭での困り感が強い子どものケース会議で障害福祉サービスの利用を提案する場合がある。その時は特定のサービス事業所名を出すことがないようにしている。
- ・教育分野においてはスクールソーシャルワーカーがいるが、すべての子どもに対応しているわけではない。
- ・スクールソーシャルワーカーなどから放デイにつなぐ場合、相談支援専門員が決まってからアセスメントの内容を共有しているため、利用する前には情報提供などはしていない。

〔県立ろう学校〕

- ・入学時に障害福祉サービスの情報を提供している。
- ・利用希望の場合は相談支援専門員に相談する。
- ・保護者のつながりで情報を得る場合もある。

○放デイの療育内容などを発信する場がない。放デイの質の向上という課題もある。放デイの課題について、検討する場が部会の下部組織としてあると良いと思う。

→市障がい福祉課では障がい児のサービス情報や通所支援事業所毎の療育内容などの発信に関する課題を感じており、対応を検討中である。

→まずは放デイの療育内容を発信することに関して、既存のサービス事業所連絡会（任意）に諮り、第3回部会で報告する。【担当:部会長】

○放デイの利用方法や療育内容などのわかるものが作成された場合、周知・配布の場はどこがあるか？

→教育支援委員会でパンフレットなどがあると説明しやすい。全保護者に配布した方が良ければ就学時健診が該当する。

→年中時に園から福祉サービスについて知らせておけると良いのではないかな。

→園では障がいの有無に関係なく、すべての家庭に知らせることになるため、利用希望者がさらに増えるのではないかな。児童発達支援から利用している子どもはそのまま放デイも利用できている。そうした仕組みの再検討も必要だと思う。

	<p>○仕事で預けなくてはならない保護者もたくさんいる。放デイは増えているが日中一時支援が少ないという課題もある。</p> <p>○子どもたちを地域に戻すことを考えれば、保育所等訪問支援をもっと増やす必要があると思う。</p> <p><u>方向性</u></p> <p>さまざまな課題が確認されたため、整理することが必要である。まずは放デイの利用方法や療育内容などについて発信することを検討する。第 3 回部会までの間に、再度検討する場を設定する。【担当：事務局】</p> <p>■その他</p> <p>個別調整会議について、現在どのくらい機能しているのか。機能していないのであれば、機能するように議論していく必要があるのではないか。</p> <p>→運営会議で確認する。【担当：部会長】</p>
次回	<p>日程：11月4日（木）10時～ 会場：福井県こども療育センター会議室</p>